

貴方との人生は走馬灯現象

長沼 繁代（茨城県稲敷郡阿見町・七十五歳）

貴方が千の風になって、今年で一年目。

三十四才で戦死したお父さんと、九十五才で亡くなったお母さんに会えたかな。

大空を見あげて、どこにいるのか探してみても広すぎてわからない。大黒柱の貴方がいなくなって、もぬけの殻になってしまった。

貴方と五十年以上も一緒に居ると、だんだん空気のような存在になり、特に話をしなくても、居るだけでなんか安心感があつた。いざという時には、心強い味方だった。

貴方がいなくなって、心に穴がぽっこり空いてしまった。息子たちと話をするたびに涙があふれ、まわりの人たちから優しい言葉をかけられては、涙を流した。これまでの貴方と歩んできた人生が走馬灯現象のように蘇ってくる。

毎日、写真の貴方にお線香をあげ、手を合わせると、

「いつまでも、くよくよしているんじゃない。俺は、お前たち家族を

見守っているよ」

と、話しかけられているような気がした。

息子たちにも、勇気づけられ、中止していた町の色々なボランティアや行事に参加し始めた。

貴方が生きている時、息子と、

「お母さんは、町の色々な会議やボランティアに参加することが、趣味だから」

と、話していたと聞かされた。私には一言もそんなことは言わず、参加させてくれたね。貴方がいない家へ戻っても、私にはやることがあったので、立ち直ってきた。気分転換しようと、沢山の本を読んでいる。また、エッセイを書いて応募している。内容は、まだまだ未熟だが、ペンを持つことで少しでも、脳の活性化になっている気がする。だから、貴方との思い出等も綴っている。それが、貴方と五十数年間つれ添った証になっているのかも知れない。

今年の六月十日。貴方の一周忌。貴方が千の風になった午前二時。私はふっと目を覚ました。辺りをキョロキョロ見渡したが、姿はなかった。

「俺の分まで、長生きしろよ。息子たちと仲良く。孫達の成長を見届けてくれよ」

と、言われたような気がした。家族の心の中では、ずっと生き続けているからね。

貴方はやっぱり偉大な人。これから、私は地域の為に、第二の人生を歩んでいきたい。遠くから見守っていて欲しい。よろしく！